

地域薬学ケア専門薬剤師副領域（がん）  
養成研修コアカリキュラム

副領域（がん）の修得のため、地域薬学ケア専門薬剤師研修コアカリキュラムに加え本研修コアカリキュラムに基づいた研修を必須とする。

1. 到達目標

地域薬学ケア専門薬剤師（がん）をめざす者（以下、研修者）は、地域薬学ケア専門薬剤師コアカリキュラムに基づいた研修に加え、本研修カリキュラムにしたがって、職務に必要ながん領域の薬物療法における高度な薬学知識・臨床知識・専門的技術を網羅的に修得し臨床経験を積むとともに、相応しい態度を身につけることを目標とする。

2. 地域薬学ケア専門薬剤師（がん）に必要な知識

2-1. がんの基礎と臨床に関する一般的知識

- 2-1-1. がんの発生、分化、増殖、転移、浸潤、薬剤耐性
- 2-1-2. がんの疫学、臨床所見、診断、合併症、予後、検診と予防
- 2-1-3. 組織病理学的分類と病期（ステージ）分類
- 2-1-4. 集学的治療（外科的治療、放射線治療、薬物療法）
- 2-1-5. 遺伝性腫瘍と家族性腫瘍
- 2-1-6. 国が定めるがん対策

2-2. がん種に関する一般的知識

2-2-1. 知識修得が必須ながん種に関する一般知識

胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、造血器腫瘍

2-2-2. 状況により修得が望ましいがん種に関する一般知識

婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がん、食道がん、皮膚がん、骨軟部腫瘍、小児がん、肝・胆・膵がん、胚細胞腫瘍、悪性中皮腫、脳腫瘍、甲状腺がん、原発不明がん、

2-3. がん薬物療法に関する基礎知識

- 2-3-1. 抗がん薬に対する薬学的知識
- 2-3-2. 主要ながんに対する標準治療レジメン
- 2-3-3. 支持療法の種類、根拠、方法
- 2-3-4. 注射用抗がん薬に関する基礎知識

- 2-3-5. 抗がん薬の取り扱いと曝露防止対策
- 2-3-6. スペシャルポピュレーションに対する薬物療法
- 2-3-7. 在宅医療におけるがん薬物療法
- 2-3-8. 特殊な管理が必要な薬剤

#### 2-4. 抗がん薬及び、支持療法薬の副作用に関する知識

悪心嘔吐、下痢、発熱性好中球減少症、味覚障害、流涙、口内炎、ぎ瘡様皮疹、爪囲炎、手足症候群、末梢神経障害、ホットフラッシュ、irAE

- 2-4-1. 上記副作用の症状と原因、発現時期、抗がん薬による発症頻度
- 2-4-2. 上記副作用の支持療法、治療、処置
- 2-4-3. 上記副作用の日常生活における注意点、ケア、食事に関する注意、予防対策
- 2-4-4. 上記副作用の早期受診すべき症状

#### 2-5. 緩和ケアについての知識

- 2-5-1. 緩和ケアの考え方
- 2-5-2. がん性疼痛の種類と評価
- 2-5-3. 使用する薬剤とその副作用
- 2-5-4. 在宅患者への緩和ケア

#### 2-6. がん患者のケアに関する知識

- 2-6-1. 妊孕性の温存
- 2-6-2. メンタルケア
- 2-6-3. ストーマケア
- 2-6-4. アピアランスケア
- 2-6-5. 栄養管理・食事指導
- 2-6-6. アドバンス・ケア・プランニング(ACP)

### 3. 地域薬学ケア専門薬剤師(がん)に必要な技術

#### 3-1. 経口抗がん薬の調剤

- 3-1-1. 管理
- 3-1-2. 調剤
- 3-1-3. 処方監査
- 3-1-4. 交付
- 3-1-5. 投与

#### 3-2. 最新の医薬品情報や臨床情報・ガイドラインなどの調査、論文の読解

#### 3-3. 患者説明

3-4. 多職種連携

3-5. がん又はがん化学療法に随伴する臨床症状に対する支持療法の推奨

3-6. がん性疼痛管理

**4. 地域薬学ケア専門薬剤師(がん)に必要な臨床経験**

基幹施設で実施する月に 3～4 回以上の指導において、2 回以上はがんの臨床症例を含む治療方針の検討の場を経験する。

**4-1. 薬学的知見に基づくがん薬物療法の指導に関する業務**

4-1-1. 患者情報(基本情報、がん種、治療内容、検査値、副作用の発現状況・対応状況、アドヒアランス、民間療法の嗜好等)の収集

4-1-2. 患者に対する適切な服薬指導・薬剤情報提供の実践

4-1-3. 副作用報告